



京都医療生協

第208号 2023年(令和5年)7月15日
発行所/ 京都医療生活協同組合
京都市中京区聚楽廻東町2番地
視力センタービル地階
☎075(822)2286 FAX075(822)6133
発行責任者/ 宮本和明

京都医療生活協同組合第76回通常総代会開く

実質対面は4年ぶり。本人出席30人

2023年度事業計画など3議案が採択。コロナ化後の新たなスタートに期待

京都医療生活協同組合は第76回通常総代会を6月17日、ホテルオークラ京都で開催しました。総代会出席87人(本人30人、書面議決57人)による開催。実質対面が4年ぶりのためか、静かな総代会でしたが、参加された総代の方々はコロナ禍後の新たなスタートに期待を寄せていました。

安部敏弘監事が、第2号議案(2023年度活動計画・予算)を清水泰治専務理事が、第3号議案(役員報酬)を松本忠之常任理事

が、それぞれ提案しました。議案が採決され、第1号議案は反対0人・保留1人・賛成85人、第2号議案は反対0人・保留1

人・賛成85人、第3号議案は反対0人・保留2人・賛成84人。賛成多数で採択されました。

司会は須賀修司常任理事。議長は上木紀介総代、運営委員は常任理事5人、資格審査委員は毛利雅彦理事、早田ちさ総代、が選任され、書記は山内博貴職員が指名されました。(関連記事2面)



ホテルオークラ京都で行われた通常総代会。コロナ感染の対策にもなった広々とした会場。医療生協のこれからをじっくり考える雰囲気いっぱい

総代会は宮本和明理事長の挨拶(大要は別掲)の後、第1号議案(2022年度活動報告・決算、監査報告)を川久保雄二郎常務理事と

大要 4年ぶりの対面による総代会を開くことができ嬉しく思います。

感慨深いものがあります。

48年間続けてきた朝日会館診療所をこの3月に閉院しました。そして4月、このホテルオークラ京都

オークラ診療所 順調

総代会挨拶 宮本和明 理事長

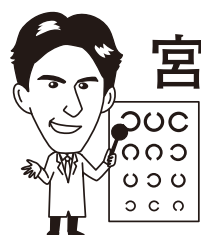


で診療所を開院して2カ月ですが、順調に運営できています。その

オークラを本日の総代会終了後にぜひ見学をしていってください。

コロナ禍で数年間、どこのクリニックでも診療収入が減少し厳しい経営です。中野眼科は厳しいなりに黒字です。組合員の皆様、総代の皆様のご支援、ご利用のおかげです。また職員の奮闘によるものです。感謝したいと思います。

宮本理事長の目も / ⑦



糖尿病と目の病気 その1 「糖尿病網膜症」

糖尿病とは、生活習慣病の一つで、血液中のブドウ糖(=血糖)が異常に高くなる病気です。我が国の糖尿病患者の数は1000万人と推計されており、さらに予備群を含めると2000万人ともいわれ、まさに現代の国民病といえます。

糖尿病は、それ自体は直接命に関わる病気ではありませんが、血糖値が高いまま放置すると、自覚症状がないまま進行して、合併症を引き起こすことが大きな問題となります。糖尿病は細い血管を傷害することが特徴的で、細い血管で栄養されている目、腎臓、神経がダメージを受け、糖尿病網膜症、

糖尿病腎症、糖尿病神経障害が三大合併症と呼ばれています。このうち、糖尿病網膜症が目の病気であつては失明原因の第一位の疾患でした(現在は第三位)。

目の奥底には、見た映像を映し出す「網膜」と呼ばれるスクリーンがあり、ものを見るために重要な役割を果たしています。網膜には、光や色を感じる神経細胞が敷きつめられていて、そこに張りめぐらされている無数の細い血管から酸素や栄養分を受け取っています。この細い網膜血管がダメージを受けて発症するのが、糖尿病網膜症です。血糖が高い状態が長く続くと、網膜の細い血管は少しずつ損傷を受け、血液がしみ出たり

(眼底出血)、詰まったり(血管閉塞)します。血管閉塞が起きると網膜のすみずみまで酸素が行き渡らなくなり、網膜が酸欠状態に陥り、その結果として新しい血管(新生血管)を生やして酸素不足を補おうとします。しっかりした新しい血管が生えればよいのですが、残念ながら新生血管はもろいために簡単に出血(硝子体出血)を起こします。出血すると網膜にかさぶたのような膜(増殖組織)が張ってきて、これが原因で網膜剥離を起こすこともあります。

また、網膜の中心には「黄斑」と呼ばれる、視力を司る重要な部分があり、そこに傷害された血管から血液の水溶成分がしみ出て、

むくみが生じます。これを黄斑浮腫といい、糖尿病網膜症の比較的初期の段階からも生じることがあり、小さい病変ながらも大きな視力障害につながります。治療の基本は、内科的な血糖コントロールです。

眼科での治療としては、網膜症の初期では経過観察を行い、病状の進行に応じて、レーザー治療(網膜光凝固術)や硝子体手術、浮腫や出血・新生血管の発症を抑える薬剤の注射療法を行います。糖尿病網膜症は、糖尿病になってから数年から10年以上経過して発症するといわれていますが、かなり進行するまで自覚症状がない場合もあり、まだ見えるから大丈夫という自己判断は危険です。糖尿病と診断されたら、目の症状がなくても定期的に眼科を受診し、眼底検査を受けるようにしましょう。

この「双眸」は理事が交代で書いています。テーマは、目のことから病気、コンタクト、健康のことまで。また医療を取り巻く社会のこと、政治のこと、さらには医療生協のことも、さらん、個人のことも。

この一年あまりは、私にとつて、まさに病魔との戦いの日々でした。最初の難病で、これでもかといわんばかりの多くの苦難を乗り越えて、ほつとしていたところでした。一ヶ月もしないうちに、次の難病が待ちかまえていました。弱気になりそうなのところ、ドクターに絶対の信頼を置き信頼関係を築く中、四時間及ぶ手術を乗り越えました。その後の三週間を超える厳しいリハビリも乗り越えました。その間、家族や親戚や、皆様より温かい励ましや激励をいただきました。ふと見回すと、ロシアを巡る混沌とした世界の経済・政治情勢や、自然災害があり、じつとしている訳にはいきません。私たちにも、何かやれることがあるはずですよ。



京都コンタクトレンズは4月のホテルオークラ京都診療所開院を機に新しい広告を出しました。既存の広告も含め、ホテルオークラ京都診療所、四条分院、京都駅前診療所の各医院周辺7カ所に設置している広告を紹介します。

■広告の設置場所は、(写真上から)市バス京都市役所前バス停、地下鉄京都市役所前駅改札口の前、同プラットホーム、地下鉄車両ドア、京阪電車三条駅改札口、烏丸通地下通路(七条通～京都駅)、京福嵐山線四条大宮駅プラットホーム。

診療所周辺 広告様々



満足できる手術とオルソケラトロジー。安心できるコンタクトレンズ 組合員さんと役職員の連携で「患者さん第一」

2023年度 事業計画

京都医療生活協同組合第76回通常総代会で採択された2023年度事業計画。コロナ禍の3年間の遅れを挽回する計画です。事業計画の文言は例年とあまり変わっていませんが、行うべき事業活動を明確にしています。1つは、コンタクトレンズ供給においてコロナ前水準まで回復することです。2つは、①手術を積極的に取り組むこと②

4月に移転・開院したホテルオークラ京都診療所を飛躍させること③オルソケラトロジー契約を増やすこと、の事業拡大です。

手術については、宮本理事長、大田亮本院副院長を中心にした医療専門職体制の強化と、手術や検査を支える医療機器の拡充などの投資、です。ホテルオークラ京都診療所については、新しい診療所

環境を、患者さんのさらなる満足にどうつなげるか、広報や接遇のレベルアップへの注力です。オルソケラトロジーについては、70余りの患者さんの声を紹介するなど積極的な広報です。

事業活動に影響を与える組織活動の活性化、そしてそれを支える組合員さん、役職員の連携が2023年度事業計画を進めるポイントです。

医療生協の人

総代理士

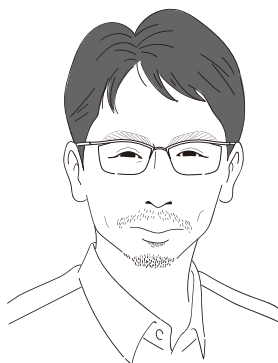
よねたに のぶゆき 米谷 信幸さん

時代遅れではありません

誰もが「穏やかな人」と評する。今年度も総代に選ばれた税理士の米谷信幸さん(48歳)。

大学を卒業して就職した地元の信用金庫の経営破綻が岐路になった。再就職先に税理士事務所を選んだ。税理士資格にも挑戦し合格。「合格した時はもう試験勉強をしなくてよい、ほっとした(笑)」と。普通の気持ちを隠さないその性格が、また米谷さんの穏やかさを色づけているようだ。

税理士業界は、パソコンの会計ソフト普及時以上にAIの影響を大きく受けるといわれる。曲がり角のようだ。従来通りでは淘汰されるのではないかと。米谷さんは、そうは短絡的には見ていない。「そういう大きな流れはあります。しかし中小企業が経理の仕事は税



理士に依頼することは少なくなってもなくなることはない。小さいところもローカルも経済を支えています。一緒に居る我々もけっして時代遅れとは思いません」

クライアントが求めるのは、どんな相談にも同じ目線で普通に対応してくれる…。「そういう税理士でありたい」と米谷さんは穏やかに話す。この人はこれだ。

上木議長「意欲感じる」 赤染総代「貸借対照表の昨年度比較を」

上木議長(写真右)の選任時の挨拶は次の通り。「毎年、新しい議案書を去年の議案書と比べて読んでいます。今年は、医療活動と組合員活動で一步踏み出そうとする意欲を感じました」

討論の中での赤染益輝総代(写真左)の発言は次の通り。「貸借対照表において前年度と比べられる資料を作成してほしい。経営上も必要性があるのではないかと思います」



老若男女に人気の四国遍路。現代はバスやマイカーで回るのが一般的ですが、歩き遍路も多くの人々が体験しています。外国人も目立ち、「般若心経」をあげる白衣姿は堂に入ったものです。

一番札所の阿波、霊山寺から、

八十八番の讃岐、大窪寺まで四国一周千二百キロ。弘法大師空海と「同行二人」の歩き旅です。著者は伊予の五十七番札所、栄福寺住職。普段はお遍路さんを迎える立場ですが「一人の人間として巡礼を経験したかった」といいます。



白川 密成著 『マイ遍路 札所住職が歩いた四国八十八ヶ所』

計八回に分け、一年八カ月かけての遍路行。時はコロナ禍。感染予防に気を使いながらも、著者は、四国の豊かな自然、人情とともに聖地にくるまれ、心のふるさとを実感します。札所を歩き順に取り上げ、遍路宿での新鮮な地元の食事なども興味

を引きます。十年ほど前、歩き遍路をしていた家人に付いて、私も最後の十カ寺ほどを歩きました。祈りの歩き旅は楽しく新鮮で、その折も何人かの外国人お遍路さんに会いました。新潮新書。(松本忠之)

総代会終了後 オークラ(診)を見学

通常総代会終了後、ホテルオークラ京都診療所の見学を行いました。約20人の総代が参加。清水専務理事が案内し「入口は診療とコンタクトレンズの2カ所。受付と待合室、向こうのカーテンがかかっているところが診察室。その右奥が検査スペース」「ホテルの駐車場は3時間無料。地下街ゼストからすぐです」と説明。「素晴らしい立地ですね」という声が…。

お知らせ
8月15日(火) 16日(水)
 全診療所 休診させていただきます。
 ナカノ眼科
 京都コンタクトレンズ